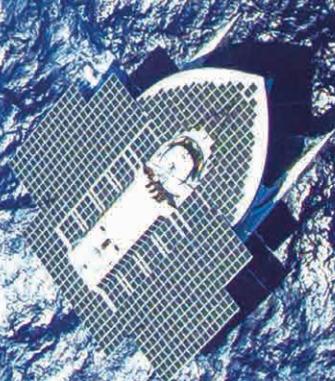


RACE FOR WATER

プラスチック海洋汚染を止めよう
再生可能エネルギーに変えよう
新・プラスチック経済を進めよう

レース・フォー・ウォーター号が 日本各地の港にやって来ます。





レース・フォー・ウォーター号は 再エネ 100%、CO₂ 排出ゼロで航海中！

洋上で太陽光、風から再生可能エネルギー 100%の電力を創り、海水を真水に、そして水素に変換し燃料電池に蓄え、CO₂ 排出ゼロで航海中。

海洋で、太陽・風・海水を利用して推進力とエネルギーと飲料水をつくり出し、航海を続けている R4W のボートです。SkySails Yacht のカイト(凧)は、デッキ前方にある発射と回収システムにより、コントロールされています。強く、安定した風が吹く高度まで 150 ~ 200mまで伸長します。AI 制御により動作し 5 ~ 8 ノットの推進力が得られます。

このカイトは、風力発電も兼ねています。512 m²のソーラーパネルと 8 t のリチウムイオンバッテリーにより、海水をナノファブリック製水機で真水に変え、電気分解で水素をつくります。水素は 25 本の貯蔵タンクに 350 気圧に圧縮して 200 kg まで貯蔵可能です。水素を 2 基の燃料電池により 2,600kWh の電力を供給できます。これにより 5 ノットで 6 日間走行が可能です。風のない日や夜も雨の日も航海を続けられ、水の補給も必要ありません。2017 年の処女航海から CO₂ 排出ゼロで世界の海を航海しています。



太陽と風、水

レース・フォー・ウォーター号のエネルギー源



乗組員: 5 名



重量: 110t



平均速度: 4 ノット

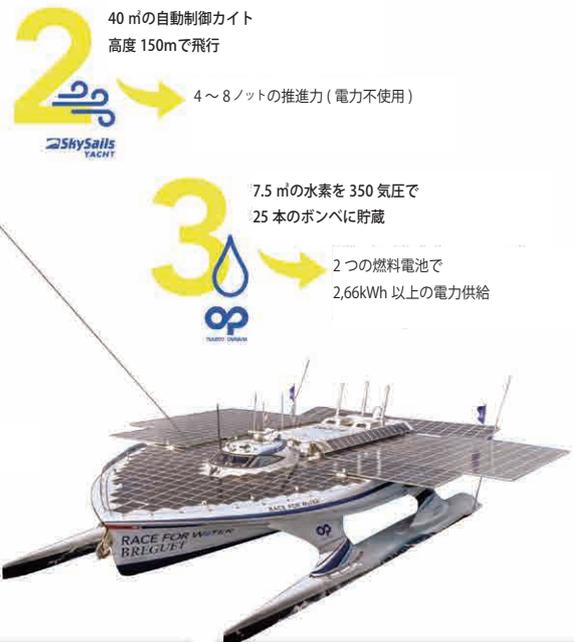


最高速度: 10 ノット

ソーラーパネル: 512 m²
7.5t のリチウムイオン電池に蓄電



36 時間走行可能電力可能



ZERI Foundation 代表、ZERI ジャパン特別顧問



グンター・パウリ

ゼロ・エミッション構想を提案・提唱。企業や研究所を回り、廃棄物ゼロの共同研究への参加を呼びかけ、国連開発計画とスイス政府の出資によって設立された ZERI Foundation 代表に就任。the Politecnico di Torino と the University of Pecs. の教授。著書『ブルーエコノミー』等

レース・フォー・ウォーター代表



マルコ・シメオーニ

スイスの起業家で 2010 年 Race for Water 財団を設立。2015 年に科学的・環境的な探索のため自然エネルギーだけで航海する R4W オデッセイを立上げ、世界初の海洋プラスチック汚染の地球規模の評価を実施し、同時に世界各地で環境啓発活動も実施。

ZERI ジャパン理事長、サラヤ株式会社社長



更家 悠介

サラヤ株式会社の代表取締役社長、ZERI ジャパン理事長。2006 年にマレーシアのサバ州キナバタンガン河下流域に緑の回廊をつくることを呼びかけ、数人と NGO Borneo Conservation Trust を設立。ウガンダにアルコール手指消毒剤の工場を設立、エボラ等感染対策に貢献。



レース・フォー・ウォーター号が日本の12港に寄港します！ Odyssey 2017-2021



Race for Water Odyssey 2017-2021 では、オリンピックイヤーに日本に寄港、各地で廃プラスチックからエネルギーを創るプロジェクトを紹介、子供達には環境教育

ZERI ジャパンについて

ZERI(Zero Emissions Research and Initiatives) は、1994 年に国連大学でグンター・パウリ (当時の学長顧問) によって提唱されました。数年間にこの構想は世界に広がりました。パウリは国連開発計画 (UNDP) とスイス政府の出資により、ジュネーブに ZERI Foundation を設立しました。2001 年に ZERI の日本の拠点として、パウリと永年の親交がある更家悠介 (サラヤ社長) が ZERI ジャパンを設立しました。

レース・フォー・ウォーターと ZERI ジャパンの協定調印

2019年2月9日、大阪市のサラヤメディカル・トレーニングセンターでレース・フォー・ウォーター財団の理事長マルコ・シメオーニと ZERI ジャパンの理事長 更家悠介が提携の契約を結び、両非営利団体が日本に寄港中のミッションを共有し、活動を共にし、協力することが決まりました。



R4W 財団と ZERI ジャパンの提携調印後の記念撮影 (サラヤメディカルトレーニングセンター)

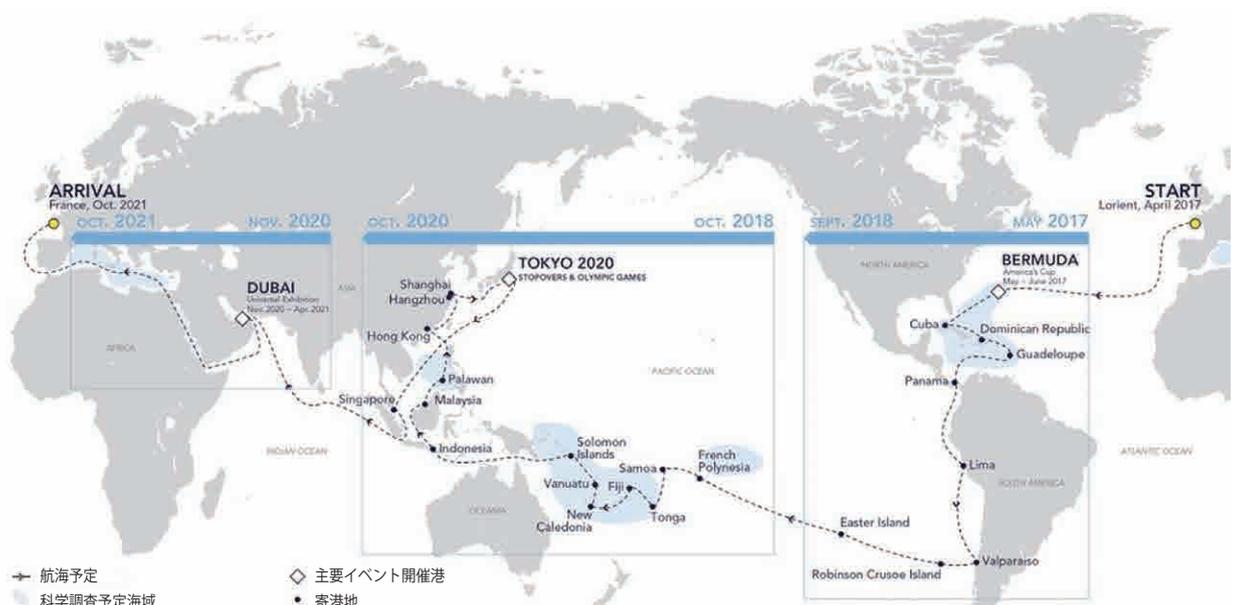
レース・フォー・ウォーター Odyssey 2017-2021

また、TICAD7(第7回アフリカ開発会議)開催中の8月29日にスイス大使館公邸で理事長の更家とパウリ (ZERI 創業者) が、レース・フォー・ウォーター Odyssey 2017-2021 や海藻を利用して海中のマイクロプラスチックを除去する計画や廃棄プラスチックの燃焼を伴わないリニューアブル・エネルギー利用の計画などについて記者発表しました。

オリンピックイヤーの日本を含めた5年に及ぶ航海、Race for Water Odyssey 2017-2021 では、プラスチック汚染の実態調査と寄港各地での子供、若者を対象の啓発活動が実施され、起業経営者などにはシメオーニが選んだ解決策の紹介も行われます。スケジュールの詳細は最後に記載しています。



Odyssey 2017-2021 のオリンピック開催年日本寄港の記者発表 (スイス大使館公邸)



Race for Water Odyssey 2017-2021 の5年間の寄港地とイベント予定地